

# 素晴らしき冬休み

校長 矢野 毅 吉

冬休みと言えば様々なことを思い出す。父親は年末年始の休みに関係のない仕事をしていたので、田舎に帰るのは夏休みと決まっており、正月は絶対家で過ごした。これは子どもにとって痛手である。九州の祖父母や親戚に会えないということは、お年玉の額に大きく影響する。家も裕福ではなかったので、お年玉の総額は昔とはいえ少なすぎた（今はもらえただけ幸せだったと思っている）。以来この敵を取るように、私は正月家に籠って、外に出ない時期があった（元日、腹筋4回、歩数57歩の記録を打ち立てたこともある）。もらってないのだから、あげる義務もない。

年末の大掃除も大嫌い。母親に「お世話になっている人に年賀状を書きなさい！」と言われるのも面倒。おせち料理も好きではなかった。好みのものを食べるともう食べるものがなく、テレビから流れる「おせちもいいけど、カレーもね♥」という某食品メーカーのCMに大きくなずいていた。父親が神棚に年末、年始の言葉を述べ、必ず初詣に家族で行く習慣も、鬼のように怖い父と一緒に楽しいわけもなく、帰りに兄弟3人の少ないお年玉を合わせて、年に1つだけ買うボードゲームのみが楽しみだった。

それが今、私は率先して大掃除をし、「やっぱりおせち料理と日本酒はベストマッチングだあ」と能書きをたれ、家族で初詣に出かけ、それなりにお年玉も渡す。年賀状も年々少なくなるが、一番の楽しみだ。「ああ、きっと祖父もこうしてきて、親父もそれを受け継いでいたのだろうな。」とこの年齢になって思う。自分がやってきたことを、残された子孫が受け継いでいる。ひょっとしたらご先祖様はそれが一番嬉しいのかも知れない。

冬休みは短い。最初の1週間は「年末だ！」と言っていたら終わり、次の1週間は「正月だ！まさしく日本の一大イベントだあ！」と言っていたら終わる。すぐ学校だ。正直、宿題も終わらせるのが目的になってしまう。しかし、君たちは学校生活7～9年のベテランだ。そこは時間をうまくやりくりして「わからない→わかった」型の問題を少しでも増やしてほしい。また、校長として追加に2つ宿題を出す。『①家の手伝いをしよう、②離れて暮らす大切な人がいたら、挨拶しておこう』。

「やっぱり日本っていいなあ～」と思うことがたくさんあるが、正月ほど多くの人がそう感じる時はないのではないか。大切にしていきたい文化である。皆さんも文化の伝承者になってもらうとともに、わずか13日だが休みを満喫して、新年、始業式には元気な顔を見せてほしい。ではよいお年を。

## 追記

1月1日終日を「元日」と言い、「元旦」とは1月1日の朝を言います。地平線から日が昇る様を想像すると覚えやすいです。また、しめ飾りは雲（ねじってる藁）、雨（下がってる藁）、雷（白い紙）、太陽（橙）を表し、自然に感謝するとともに、厄払いの意味があります（諸説あり）。